

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 012	提案機関名 県央地域県政総合センター
要望問題名 津久井在来大豆の収量向上及び省力栽培技術確立のための現地試験	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 津久井在来大豆は「神奈川ブランド」に認定され神奈川県産の大豆として、農業体験や、味噌づくり等の食育の教材として利用されている。しかしながら、大豆の栽培で収益を上げることが困難なことから、生産者が少なく、県の特産物を求める加工業者などからの引き合いに、応じることができない状況になっている。 大豆の栽培は、野菜等に比べ生産性が低いため、より省力的な生産技術が求められており、さらに、連作による収量低下が起きるため、農業者が生産に取り組む上で課題になっている。特に、相模原市の津久井地域では、特産品としての関心は高いが、耕地が狭く、新規就農者なども多いため、経営的に導入が難しい状況になっている。 地域の農業者が生産に取り組めるよう、中山間地である津久井地域に合った、省力的で一定水準の収量が確保できる栽培技術の確立をお願いしたい。また、連作障害、気象条件、現地農業者への啓発等を考慮して、現地での実証を中心とした技術開発をお願いしたい。 技術の波及効果としては県内全体。技術の普及対象としては相模原市津久井地域が対象。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) I-2 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発 (2) 作物の高品質・安定生産技術の開発 イ 畑作物の高品質・安定生産技術の開発 エ ダイズ「津久井在来」安定栽培体系の確立		
対応の内容等	大豆減収の大きな要因である雑草の省力的防除法として、茎葉散布用除草剤の「津久井在来」に対する薬害試験を実施しています。また、国、公的研究機関により「300A 技術」として種々の障害対策技術や省力化技術が開発されています。これらの技術のうち中山間地への適用可能な技術として、中耕培土の省略による除草作業の省力化及び機械収穫の作業精度向上が可能になることにより増収が期待される狭畦栽培について、「津久井在来」における適用性評価試験を実施してまいります。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			